

リレーエッセー
大きくなあれ
Vol.1

**子どもたちから見た
お仏壇**
帰依龍照
週刊レキオ・2002・4月掲載



住職「チャーピラサイ（こんにちは）」
父親「あつ、住職。今日はオバアのスコアよろしくお願いいたします。こらっ！小学生は、邪魔だから二階に上がりなさい」
息子「なんで、いいさ」
父親「言うことを聞かないと、住職にお灸を据えられて、お寺さんに連れて行かれるよ」
息子「二階に逃げる〜」
住職「……」
小生は、この家の子どもたちから「デビルマン」と呼ばれている。そうである。黒い衣を着ているし、身長百八十六センチ・体重九十七キログラムの体型のせいもあるのだろうが…シヨック！
職業柄、毎日多くの家庭にお参りさせていただき、そこにいるいろいろな子どもたちと出会う。小生に対する反応もさまざまである。
沖縄のスコア（法事）は、ご存知の通り、一周忌から始まって三十三回忌までの計六回。子どもたちから見れば、多くの親族が集まり、普段と違う家族の姿に触れ

知らず知らずのうちに故人をしのぶ法要の大切さを学んでいくのであろう。
小生は、子どもたちがお仏壇の周りで騒いでいても、決して叱らないように心掛けています。家族にも、子どもたちをほかの部屋に入れたりしないように、可能な限り法要に出席させていただくようにお願いしている。
『仏法は毛穴から入る』という格言がある。仏の教えを学ぶためには、頻繁に師匠の元に通い、理解できなくてもその場に座ることが大切である。そのうち仏の教えは、毛穴から入るようになる。伝わってくるという意味である。これからすると、まさに『教育も毛穴から入る』であろう。スコアの邪魔になるはずのこともたちも、お経になると急に静かになり、一生懸命お焼香をし

ながら、かわいい両手で「アー トートー、ウートートー」と始める。
スコアの意味が理解できなくても、お仏壇の前に座ることにより、故人をしのぶことの大切さが毛穴から入り、そしてやがては沖縄の伝統文化を継承していくのであろう。ご家族の方々には、ぜひとも、子どもたちをお仏壇の前に座らせていただきたい。命の大切さと心の優しさを伝えていくために…。
小生、二階に逃げて行ったこと私たちの五十年後を想像してみた。
住職「チャーピラサイ」
息子「住職、今日はオジイのスコアよろしくお願いいたします。父ちゃん、住職が来られたよ」
父親「えっ！お灸を据えられる。二階に逃げる〜」
住職「今度は逃がすか！息子さ



吉の浦公園（中城村当間）

遊び場スゲッチ



オンヤペリは
下地麻子さん（中城小学校6年生）

いつも陸上部が始まる前に、友達と吉の浦公園で遊んでいる。はやっている遊びは鬼ごっこ、かくれんぼ、教室で黒板に絵を書いたりすることかな。好きな教科は社会科。総合学習では「島にんじん」を勉強したよ。キャロット工場に行ってカステラやドレッシングを作っているところを見学した。ちえりと二人で写真も撮ってみんなの前で発表したんだよ。楽しかったなー。

将来は沖縄の文化博士になりたい。麻子が一番好きなところは知念城跡。森の中にあって緑もいっぱいあって静かだから。沖縄の歴史は大好き！ぐすくでもいろんな形のものがあるって門とかは見てるだけおもしろいんだ。休みにになったら「なかそねトウユミアげんが」の墓に行ってみたいなー。



麻子の宝物は、お父さんに貰った「ぐすくの写真集」

下地麻子



このコーナーは、日々子どもたちとかかわる方たちのリレーエッセーです。
（執筆）
☑ 帰依龍照（住職）
☐ 宮城英雅（小児科医）
☐ 平良辰浩（学童クラブ指導員）
☐ 下地直也（保育士）
☐ 真栄城栄子（ぐすく平和文化館）
☐ 新里恒彦（子供育成協議会）
ご意見をはがきかファクス、Eメールで編集部までお寄せください

ん、ロープとガムテープはありますか！
子どもたち、素直に大きくなれ！
（コザ真宗寺・旧コザ本願寺・住職）